hap·py
→go
→luck·y

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 〈人の行動が〉のんきな、きらくな。
名 10代におくるブックガイド。

はぴ4号

2009年4月発行
【編集・発行】
さいたま市立中央図書館
さいたま市浦和区
東高砂町 11-1
TEL 048-871-2100
FAX 048-884-5500
HP http://www.lib.city.saitama.jp

バンドやろうぜ！

『おれたちのＤ＆Ｓ（デマンド・アンド・サプライ）』

舞台は埼玉の男子校。高校２年生の柔一は剣道部のレギュラー入りを目指し、毎日練習に明け暮れていた。
そんな時、同級生に誘われたのは、ビートルズの完コピバンド・Ｄ＆Ｓ。目指すは文化祭のライブ。竹刀をスティックに持ち替えて、ビートを刻み始めた途端、平凡だった高校生活に、いきなりスポットライトが当たり始めた！
何かに熱くなるってことは、意外と悪くない。今しか出来ないことが、きっとある。

アーティストのホンネ

『カウントダウンノベルズ』

豊島ミホ作　集英社　2008 年

ある週のＪ-ＰＯＰチャートのトップテンにランクインした１０組のミュージシャンたちを描く。
眩しいスポットライト、熱狂的な歓声、華やかな芸能界。けれど、それは永遠の場所ではない。夢をつかみたい、輝き続けたい、消えたくないと願う者たちの戦いの場所。誰もが自分の才能だけを信じて、ギリギリの毎日を生きている。
「負け組」「勝ち組」という言葉では終われない、終わらせることができない青春の物語。

共感覚の持ち主

『星の歌を聞きながら』　ティム・ボウラー作　入江真佐子訳　早川書房　2005 年

一流ピアニストだった最愛の父の死に、ルークは心を閉ざし、父譲りの才能も持て余していた。ある日、不良仲間の命令で〈お屋敷〉に盗みに入る。そこには、何かにおびえて泣く少女がいた。屋敷の主ミセス・リトルに見つかったルークは、警察に知らせるかわりに相談を持ちかけられる。「…孫娘のためにピアノを弾いてもらえないだろうか」と。
こうして、ルークと盲目の少女ナタリーとの音楽を通した不思議な交流が始まった。

あの作曲家の恋

『クラシック名曲を生んだ恋物語』

西原稔作　（講談社＋α新書）　2005 年

大作曲家たちの数々の名作が生まれた裏には、さまざまな愛のよろこびや苦しみがあった。ヨーハン・シュトラウス二世は３人の妻に愛され、ヴァーグナーは多情な愛が楽劇創作の下地になった。
モーツァルト、ベートーヴェンといった誰でも知っている大作曲家２６名を取り上げ、彼らの愛の形と名作を紹介したクラシック音楽の入門書である。

友情×音楽＝？

『ぎぶそん』

伊藤たかみ作　ポプラ社　2005 年

僕はガク、中学２年生。伝説のロックバンド“ガンズ”のコピーがしたくてクラスメイトでちょっとかわり者のかけるをバンドに誘った。ベースのマロは不満げだけど、あのギターを演奏するにはかけるのテクが必要なんだ。ドラムは紅一点のリリイ。紅一点と言ってもぜーんぜん女子って気がしない。
そんな僕たち４人のぎぶそん仲間（これ、かけるのじいちゃんのネーミング）で目指すは文化祭。
僕たちは北中のガンズになれるだろうか？

人と獣の間には

『獣の奏者』Ⅰ闘蛇編　Ⅱ王獣編

上橋菜穂子作　講談社　2006 年

リョザ神王国には、２つの神聖な獣がいる。戦闘用の闘蛇と、国の象徴の王獣。彼らは決して人に馴れず、音無し笛で威嚇しないと操れない。
闘蛇を養う村で育った少女エリンは、王獣の子リランと巡り合い、偶然にも竪琴を使って会話する術をみつけてしまう。
しかしそれは、国の根幹をゆるがす技を復活させた事を意味していた。

ゆるゆるクラシック

『図解クラシック音楽大事典』

吉松隆作　学習研究所　2004 年

クラシック音楽をムズカシーと思っている人たちにおくる“ネコでもわかるよーにクラシック音楽を解説する本”（序章より）。
オーケストラの編成や指揮棒の振り方から、ちょっと本格的な大譜表や移調楽器までわかりやすく説明しています。
ゆるいイラストからは想像できないでしょうが、作者の本職は交響曲作曲家。さいたま市図書館にもＣＤがあります。

ジャズやるべ！

『スウィングガールズ』

矢口史靖作　メディアファクトリー　2004 年

夏休みだというのに、数学の補習のために高校に集まった少数精鋭の「駄目生徒」たちが、ひょんなことからビッグバンドジャズを始めることになった。まずは楽器を手に入れるためにバイトを始めたけれど、そこは「駄目生徒」たち、スムーズに楽器購入とはいかないわけで･･･。
ジャズの軽快なスウィングに乗せて走り出す、女子高校生たちの青春。２００４年に公開された同名映画の原作本です。

18世紀のロンドン

『その歌声は天にあふれる』

ガヴィン作　野の水生訳　徳間書店　2005 年

教会の聖歌隊で歌う少年アレクサンダーは、音楽家になる事を切望している。しかし領主の跡取りであるため許されず、声変わりを機に家に連れ戻された。それでも音楽の道を諦めきれず、家を飛び出す。恋人のお腹に新しい命が宿っているとも知らずに。やがて音楽家となった彼が、教会の聖歌隊で見出したものとは…。
史実に基づいて書かれた、音楽によって人生を取り戻した子ども達の物語。

音楽を着よう。

『オーケストラの105人』

カーラ・カスキン作
マーク・サイモント絵
岩谷時子訳
すえもりブックス　1995年

ほんのひととき。

金曜日、華やかなコンサートの夜。オーケストラのメンバーたちが、自宅でお風呂に入り
タキシードやドレスを身につけ、ホールへ出かけて舞台に上がるまでをつぶさに描きます。
年齢や外見もさまざまな人たちが、ページをめくるたび少しずつ舞台向きの姿に
変身していく様子は、コンサートの楽しい時間のはじまりを感じさせてワクワクします。
お客さんとして行くコンサートも楽しいですが、
団員と一緒に舞台裏からのぞくコンサートもまた一興。
いっぷう変わった、でも音楽への愛が感じられる絵本です。

図書館は「本」だけじゃない！

～小説「オペラ座の怪人」から～

著者ガストン・ルルーは代表作『黄色い部屋の秘密』ほか推理小説を中心に多くの作品を発表しています。中でも『オペラ座の怪人』は数々の映画やミュージカルとして繰り返し形を変え、人々に親しまれてきた作品です。作中の音楽もそれぞれ人気があり、みなさんも知っている曲があるのではないでしょうか。

ちなみに、さいたま市図書館のホームページで『オペラ座の怪人』を検索すると、５４件がヒットします。小説でも５つの訳書があり、そのほかに写真集、ＣＤ、ビデオなどもあります。

恋愛あり、サスペンスあり、華やかなオペラ座を舞台に繰り広げられる活劇をどうぞお楽しみください。

～本から広がる芸術の世界～

次号は「旅」（7月発行）

「10代のページ」できました！

図書館のホームページの中に、「10代のページ」ができました。「はぴ」のweb版もあるので、ぜひ、のぞいてみてね！　図書館HP http://www.lib.city.saitama.jp/